

第1回日本放射線事故・災害医学会

開催のご案内

皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、平成25年8月24日（土）広島市において第1回日本放射線事故・災害医学会を開催させて頂くことになりました。

本学会は、東海村JCO臨界事故に先立つこと2年前の平成9年に、「緊急時被ばく医療の現状、事故事例および放射線障害、線量評価等の最新の知見を検討し、医療の面から原子力防災対策のより良い実現に向かって提言を行うこと、また、それらを検証していくこと」を目的に設立された放射線事故医療研究会が、発展的に学会組織となったものです。平成23年3月11日の東日本大震災に複合した福島第一原子力発電所事故では、災害大国日本における被ばく医療体制のあり方が改めて問われました。この大災害は多くの国民に極めて厳しい現実を突きつけると同時に、様々な分野における連携の必要性と将来の糧とすべき新たな事実も明らかにしました。私たちはこの貴重な経験に基づいた検証結果を社会に還元する役割を担っています。そこで今回は被爆地広島が発信してきたメッセージ、放射線医学に関わる最新の知見を紹介するとともに、災害大国日本における被ばく医療の新たな取り組みについて皆さんと共有し、ディスカッションする予定としています。

本学会では、災害、救急、放射線、公衆衛生領域に止まらず、科学技術と社会との関わりに至るまで、幅広い領域の専門家による闊達な意見交換を期待しております。本学会の活動を通じて、日本から国際社会に対して情報発信ができるものと確信しております。

多くの皆さまの参加を心よりお待ちしております。

よろしく願い申し上げます。

第1回日本放射線事故・災害医学会

会長 谷川攻一（広島大学救急医学教授）

概要

■日 時：平成25年8月24日（土曜日） 10：00～16：30

■場 所：広島国際会議場

〒730-0811 広島市中区中島町 1-5（平和祈念公園内）

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/icch/access.html>

■テーマ：

「災害大国日本における緊急被ばく医療体制とは」

—福島の実験を生かして—

■プログラム概略：（詳細は後日HPに掲載予定）

- 特別講演：大久保利晃氏（HICARE会長、放影研理事長）
「HICAREの活動：被爆地広島からの発信（仮題）」
- 教育講演：神谷研二氏（広島大学副学長）
「放射線からの生体防御機転に関する最新の知見」
- 教育講演：東 幸仁氏（広島大学再生医療科学部門教授）
「急性放射線障害と再生医療」
- ランチョンセミナー：大友康裕氏（東京医科歯科大学教授）
「特殊災害時のDMAT活動」
- パネルディスカッション：
「福島原発事故における組織としての対応」
- シンポジウム：
「地域における新たな被ばく医療体制の整備と課題」

■参加費：

会 員：2,000円 非会員：3,000円

懇親会：3,000円（当日受付可）

■参加登録 申込書に必要事項をご記入の上、8月9日（金）までに別紙FAXにて返信くださいますようお願いいたします。

■問い合わせ：

第1回日本放射線事故・災害医学会 事務局

廣橋伸之（広島大学救急医学准教授）

竹野会美（救急医学教室秘書）

〒734-8551 広島県広島市南区霞一丁目2番3号

広島大学救急医学教室

TEL：082-257-5456

FAX：082-257-5589

E-mail：kyukyu@hiroshima-u.ac.jp